

令和7年度 卒業式 式辞

馥郁たる梅の香りが新しい春の訪れを感じる今日の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに令和七年度 茨城県立茎崎高等学校 第三十九回卒業証書授与式を挙げてまいすことは、卒業生はもとより、私たち教職員にとりましてこの上ない喜びでございます。関係の皆様方には、今日までの温かいご支援に深く感謝申し上げます。

ただ今、呼名され、卒業証書を授与されました七十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日、めでたく卒業の日を迎えることができたことは、一人一人がたゆまぬ努力を続けてきた結果であるとともに、様々な形で支え、励ましてくださった保護者や家族、友人、地域の方々の存在があればこそです。今日の日を迎えるにあたり、改めて自分を支えてくれた方々に対して、感謝の気持ちを伝えていただきたいと思ひます。

さて、新しい門出を迎える皆さんに、「阿吽」という言葉をはなむけに贈ります。

「阿吽」とは、もともと禅の言葉です。五十音の最初が「あ」で、最後が「ん」であるように、「阿」は口を開いて出す始まりの音、「吽」は口を閉じて出す最後の音を指します。そこから、それぞれ宇宙の始まりと終わりを表す言葉とされました。この世の全ては、この「阿」と「吽」の間にある、一瞬一瞬の「今」の積み重ねによって出来ていひます。皆さんに覚えておいてほしいのは、過去を悔んだり、未来を憂いたりすることに心を奪われず、今この瞬間を全力で生きることこそが重要である、ということです。過去にく

よくよしているよりも、未来を不安がっているよりも、今ある環境の中で最善を尽くすことこそが、豊かな人生を切り拓く道なのです。

また、この「阿吽」という言葉には、もう一つの大切な意味があります。神社の狛犬や金剛力士像を思い浮かべてみてください。一方が口を開けた「阿形（あぎょう）」、もう一方が口を閉じた「吽形（うんぎょう）」となって一対で存在しています。この相対する二つのものがピッタリと息を合わせる様を、私たちは「阿吽の呼吸」と呼びます。阿吽の呼吸が自然に生まれてくるのは、相手と自分をしっかりと理解しようと努めている、互いを思いやる心が通い合っている、揺るぎない信頼の証です。これから先、人間関係に悩まされることもあるでしょう。しかし、周囲と息を合わせようと歩み寄り、一瞬一瞬を有意義に過ごそうとする姿勢があれば、皆さんの周りには自ずと、温かく、確かな道が拓けていくはずです。

皆さんの高校生活という「阿」から「吽」は、今日で一つの区切りを迎えます。しかし、それは明日という新しい「阿」の始まりでもあります。過去や未来を嘆くより、今を全力で生きること。そして周囲との「阿吽の呼吸」という関係を大事にすること。この二つを胸に、新しい世界へ力強く踏み出してください。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きく成長され、新たな旅立ちの日を迎えたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。本日に至るまで本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜りましたこ

とに厚く御礼申し上げます。卒業生は今日巣立っていきますが、荃崎高校はこれからも生徒一人一人の、また保護者の皆様の心の拠り所であり続けることをお約束いたします。今後とも本校に対する変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんのさらなる成長と、ご臨席賜りました皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和八年三月一日

茨城県立荃崎高等学校長 吉田 真弘